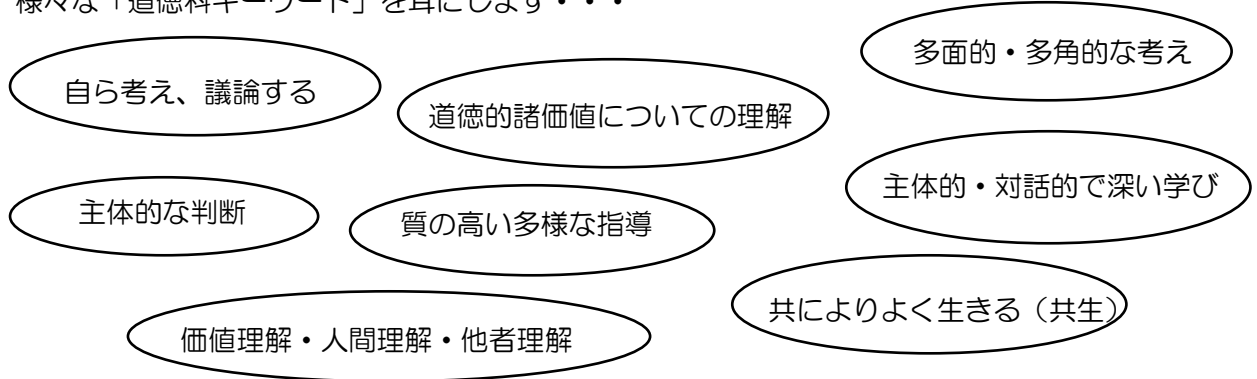


第2回岡道楽の会

2018. 11. 27 (火) 於；総合学習センター
城南小学校 大橋喜代美

1 「特別の教科・道徳」が始まって

様々な「道徳科キーワード」を耳にします・・・



日々の「授業」の中で、

これらのキーワードがどのように生きているのか・・・

日々の「授業」の中で、

これらのキーワードに寄り添おうと、自分なりに工夫していますが・・・

(私は) 不安になってしまいます！！

2 役割演技の場における 教師の多様な「問い返し」を考える

～教材「黄色いベンチ」(2年)

*指導案 別紙参照～

《中心発問(まん中問題)》

「はっ。」として顔を見合わせた たかしとてつおは、この後、どんなことを話していきましょう。

*教師；おばあさん役 *子ども(2人)；たかしとてつお役 *子ども(1人)；小さい女の子役

【女の子】 おばあちゃん、早く早く。

【おばあさん】 まあ、まあこんなどろだらけのベンチにすわって、ようぶくがどろだらけですよ。
(女の子を立たせて泥を拭いてあげている)

【たかし・てつお】(「はっ。」として、顔を見合わせる)

こんな出だして、役割演技をスタートします！

たかしとてつお役の子どもたちは、多様な言葉を返してくると思われれます。(しかも、予想以上にこちらが怯むような・・・)

例えば、以下のようなタイプの子どもたちには、どんな問い返しをしたらよいと思われれますか？

グループに分かれて、ミニ模擬授業をやってみましょう！！

- おばあさん役(参加された先生方の中から1名以上。時間をみながら可能な限りで)
- たかしとてつお役の子どもの役(城南小若手職員2人) • 女の子役の子ども役(城南小職員)

Aタイプ

《準備したい 教師の問い返し》

【た】しまった。泥だらけの靴でベンチに上ったから女の子の服が汚れちゃったよ。

【て】飛行機を飛ばすことばかり考えてて気づかなかったよ。どうしよう。

【た】どうする。謝りに行く？

【て】怒られそうで怖いけど、汚したのは僕たちだからね・・・あのう、僕たちがベンチを汚しました。ごめんなさい・・・

【た】ごめんなさい。服も汚しちゃってごめんなさい。もうしません！ごめんなさい・・・

Bタイプ

【た】しまった。泥だらけの靴でベンチに上ったから女の子の服が汚れちゃったよ。

【て】飛行機を飛ばすことばかり考えてて気づかなかったよ。どうしよう。

【た】どうする。怒ってるかもしれないね。

【て】僕たちがやったことは知らないよね。怖いから黙ってようか。ベンチを後で掃除すればいいよ

【た】どのくらい汚れたのかなあ、見に行こうよ。

【た・て】あのう、どうしたんですか・・・

Cタイプ

【た】しまった。泥だらけの靴でベンチに上ったから女の子の服が汚れちゃったよ。

【て】飛行機を飛ばすことばかり考えてて気づかなかったよ。どうしよう。

【た】でも、どうしても飛行機を飛ばしたかったし。

【て】飛行機を飛ばしたかったことを言って、あやまればいいんじゃないかな。

【た】あのう、僕たち、高いところから飛行機を飛ばしたくてベンチに上っちゃって・・・ごめんなさい。

【て】後で、ベンチを掃除します・・・

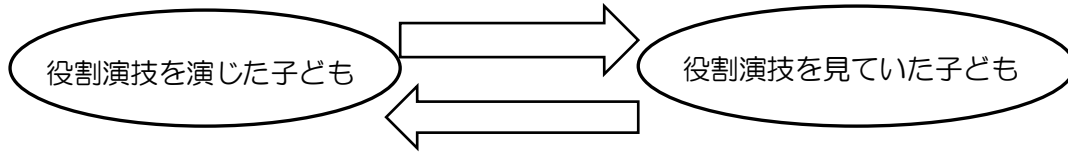
役割演技の教師支援においては、

* 子どもたちのその場でのありのままの思いを引き出す。

* 思いの理由や根拠を明確にさせる。 そして・・・

* 本時で学ぶテーマ（内容項目）に迫っていく。を大事にしたいです！

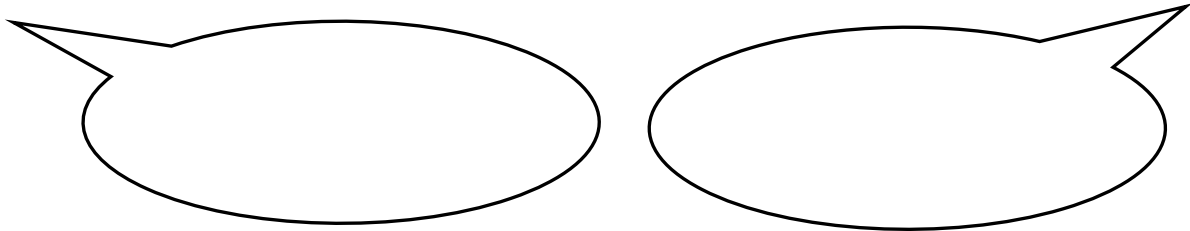
3 役割演技の行後が大事！…新たな気付きや思いを全体で共有する



＊相互交流によって学級全体で学びのテーマを共有する。

本時の場合は・・・

「みんなでつかうものをつかうときにたいせつなこと」（みんなでつかうものをだいじにする心）についてより迫っていく！だから、ここでもさらに教師の問い返しを準備したい！



＊自分事に返って考えを深めていくような問い返しにしたい。
（子どもの意見の言葉を使った問い返しにできるとベスト！）

4 その他(少し前から‘意外に有効かも！’と思って自分なりに実践していること)

(1) 主に問題解決的に取り組みたい授業において

- ① 資料中の主人公を確認する。
- ② 子どもたちに、問題のつくり方の基本パターンを伝える。(特に低・中学年)
「～のときの気持ちは？」「なぜ、～したのか？」「この後～はどうなったか」
「～についてどう思うか？」 ＊前面掲示にしたい。
- ③ 自分が選んだ問題の理由を問い返す。
- ④ 心情軸や座標軸などの思考ツールを取り入れ、対立的な構造が見える横書きの板書を工夫する。

(2) 主に場面発問で取り組む授業において

- ① 場面絵とねらいに迫るキーワード短冊を貼り付けながら、資料を読む。(教科書を見せない)
- ② 最初と最後の場面の違いや変化を比較させる。
- ③ 最初に聞いた自分の生活の中の思いからつなげて、最後に自分の生活に返って思いが深まったかどうかを聞く。(自分事に始まり、自分事で終わる)

(3) 評価に関わることにおいて

- ① 発言できない子には、自分の考えに近い意見のところに名札を貼らせる。
- ② 自己評価(振り返り)は、毎回必ず記述するようにして積み重ねる。機を捉えて、同じ内容項目の授業のノートと比較して、その深まりを見取る。